

第3回懇話会 会議要録

- 日 時 令和2年10月15日(木)午後1時30分から3時30分
- 会 場 和光市役所6階 603会議室
- 出席者 田中明会長、守谷高志副会長、山口真司、大塚啓子、小西誠司、原浩明、堀文雄、又地由美、杉尾裕嗣(敬称略)
- 欠席者 瀧嶋明康(敬称略)
- 傍聴者 2名
- 事務局 総務人権課長 亀井、総務人権課課長補佐 本多、文化交流担当主任 登島、文化交流担当主事補 高橋

1. あいさつ

和光市総務部総務人権課長 亀井 義和

2. 議題

(1) 第三次和光市国際化推進計画素案について

事務局

計画素案について説明

- ・ 素案は、懇話会委員の意見、統計データなどに基づき、事務局が検討を重ねて作成した。
- ・ 前回会議からの大きな変更点を説明、質問・意見への回答

本日は、事前に郵送させていただいたこの素案について審議をお願いしたいと思う。素案の内容や表現などについてご意見をいただいたら、次回の会議までに追加・修正する。

田中会長

事務局から説明があったように、本日は、この素案についての審議を行う。審議する章を指定し、時間を区切って進めていくが、限られた時間内で有意義な審議が行われるよう、事務局に適宜説明を求めたり、会議の進行を手伝ってもらったりすることをご了承いただきたい。発言は、素案の内容に関することだけにさせていただくよう、ご協力をお願いします。

<第1章について>

田中会長

それでは、第1章から順番に始める。
第1章は1ページだけなので、今から10分を目安に協議する。
意見などがある方は挙手をして発言をお願いします。

堀委員	第2章の8ページまでは、前回の会議から素案が変わっていないので、修正が無いのであれば、9ページ以降の素案について協議すると良いと思う。
田中会長	そのように、2章の9ページ以降についての協議を進めるのでよろしいか。何か意見等はあるか。
全員	なし。
守谷委員	補足になるが、言葉について、I T（情報技術）とI C T（情報コミュニケーション技術）は似たような言葉ではあるが、デジタル化については少し意味合いが異なる。デジタル化となると、I TやI C Tも発展する。例えば、データ化やデータの共有などがある。デジタル化という言葉をやうまく組み込んでほしいと思っている。
田中会長	デジタル化やI Tについて、各施策における取り組みに組み込めればと思う。国際化推進計画の枠組みは変えず、取り組みの中で出来たらと思う。

<第2章について>

田中会長	続いて、第2章に移る。前回の素案と変わった9ページ以降について、協議を始める。10分を目安に協議する。
杉尾委員	前回の会議にて、和光市に住んでいる外国籍市民の特徴について質問し、今回の資料の中で答えていただいている。質問の趣旨は、和光市に住む外国人を在留資格別での特徴を見ることで、和光市が他の市と異なる特徴があるのであれば、それに合わせて重点的な取り組みなどをアピールできたら良いと思うが、それは市民全員に平等ということを考えて必要のないことであるのか。特徴を生かして国際化推進の施策の中に入れることはできないのだろうか。外国籍市民の特徴があるのであれば、それを生かした取り組みをしていけたらと思う。
田中会長	事務局としては、杉尾委員が言ったように、外国籍市民の特徴を踏まえての方向性で進めることはできるのか。
事務局	外国籍市民の資格別の特徴を見たらうえて、例えばどんな施策が考えられるか。
杉尾委員	施策というよりも、多言語化についてである。全てをまとめて多言語化すると考えるのではなく、技術・人文知識・国際業務に携わる人が沢山いるのならば、まずは国際的な情報伝達や収集において、英語や中国語、を取り入れるなど、中心にして、体形を作っていく。それが確立できたうえて、英語や中国語以外においても多言語化を進められたらと思う。

事務局	計画の中では、詳しくは書いていないが、経験の中で英語、中国語についてはニーズが多いと感じている。そのため、計画の中で多言語化について記述しているが、実際には何か国語も作成するのではなく、ニーズに合わせて翻訳を行っている。
田中会長	私の把握するところでは、災害時に備え、市内の学校等に防災倉庫が設置されているが、その中に、避難の誘導の仕方を英語、中国語、韓国語等で示されたカードが用意されている。
守谷委員	外国籍市民の特徴について、長期滞在する外国人であるのか、短期で滞在する外国人であるのか等、和光市においての特徴はあるのか。一律にできることは限られているので、ある程度区分分けをして、それぞれに合った対応の窓口があっても良いと思う。日本語教室で教えていても、短期の方と長期の方では必要なことが異なっている。杉尾委員の話聞いて、それもできたらよいと思った。
又地委員	第2章の章題について、章題と章の内容が一致していないように感じられる。第2章の中で多く書かれていることは、外国籍市民を取り巻く現状と課題についてである。そして最後に国際化の目標が掲げられている。内容がそれであるのならば、章題の「和光市の国際化の方向性」とは齟齬があるように感じられる。もし内容が「1 国際化の現状と課題」と「2 国際化の目標」であるのならば、章題が内容と一致するように工夫をしたら良いと思う。
事務局	「和光市の国際化の現状・課題と目標」として修正しようと思う。
田中会長	第2章の章題について内容と一致させるとのことだが、他に意見等はあるか。
堀委員	又地委員に同感である。「国際化の方向性」と書かれているが、読むと実際は外国籍市民の現状と目標であるため、どんな方向性に進むのかということではないと思う。事務局で整理してもらい、分かりやすいものになればよい。 また、9ページの施策の基本方針について、「国際交流〔協力〕活動を促進と国際理解教育の推進」とある。これは、「を」を「の」に変え、「国際交流〔協力〕活動の促進と国際理解教育の推進」ではないか。または、「国際交流〔協力〕活動の促進・国際理解教育の推進」の2つに分かれているのが良いと思う。前回の会議の素案では、施策が「～する」という語尾であり、「、」で区切られていた。
田中会長	第2章の標題については、内容と一致させるということによろしいか。事務局で再度検討し修正をお願いします。また、堀委員のお話の通り、他の部分においても言葉のつながり等検討し修正をお願いします。

<第3章について>

- 田中会長 続いて、第3章に移る。目安として40分で協議する。
- 小西委員 13ページから14ページにかけて、外国人の生活支援の充実について書かれている。理化学研究所にいる外国人の支援をしている中で、厳しいと感じられるのが医療機関についての支援である。市内で外国人を受け入れている医療機関もあるが、圧倒的に少ないと感じられる。和光市として、対応のできる医療機関の誘致を行えないか。医療機関の充実について盛り込んでもらえればと思う。
また、住宅事情になるのだが、理化学研究所の敷地内に住宅もあるが、それ以外に西大和団地や近隣の住宅に外国籍の方が住んでいる。外国人が一人で住むとなるとなかなかフォローが行き届かないこともある。外国籍の方が住みやすく、コミュニティを形成しやすい住宅等の充実が可能であるのならばやっていただけたらと思う。
- 田中会長 事務局としてはどのように考えるか。外国籍の方が医療機関に行ってもサービスを受けられない、外国語で対応できない医療従事者もいると考えられる。実際、医療現場で外国語で対応できるスタッフが少なく、対応できるスタッフの負担が大きいという話を聞く。
- 事務局 医療機関の誘致となると大規模な話なので、すぐに応えることはできない。
- 小西委員 英語が話せる医師にクリニックを開設していただく、とのことでも良いので何か働きかけができないか。
- 事務局 現在、実現可能であると考えられることとして、「ふじみの国際交流センター」で医療通訳を依頼することができるので、和光市でも、困っている外国籍市民の方に紹介するということが考えられる。医療通訳については市でも検討していきたい。機関の誘致等大規模なことを10年間の計画に容易に盛り込むことはできないが、一意見として内部で共有・検討させていただく。
- 田中会長 小西委員の意見は、13ページ中の「緊急時における支援体制」に係る部分であると思う。このページの下部に注釈での記入は難しいかもしれないが、小西委員が言ったような方法について、委員の一意見としてあったことを、国際化を推進するうえでのヒントやきっかけとなるか分からないが、残してもらえたらと思う。
- 堀委員 10年間の計画であることから包括的に書かれている。以前はどの課がどれを担当しているか分かりやすく示されていた。この計画を受けて、各課が実現することができるのか確実ではないため、詳細に記載して実現できないことがあっても良くない。今まで記載されていた目標について削除されている。具体策については書かれてお

らず、包括的に書かれている。民間と連携してやること、市としてやること、自治会や社会福祉協議会との関連性について揃えることができたらと思う。事務局はどのように考えるのか。包括的な計画でも良いが、具体策はどうするのか知りたい。それによって内容が異なってくると思う。

田中会長 このような計画を作るなかで、太い一本の幹（柱）があり、根っこ（施策）が末広がるが、それも明確にしなければならない。以前の計画は細かかったが、今回の計画はコンパクトにまとめられている。コンパクトに作ればより分かりやすくしなければならないと考える。ただ文章が多いだけでの計画では役に立たない、それぞれの施策よりさらに枝分かれしてどのように進めることができるのか、方向性をもたなければならない。そうでないと、いつまでも進歩のない、同じような計画になってしまう。

事務局 計画に具体的に書きすぎて達成できないことも困るが、書かないというのも話し合っているのに残念である。具体案については、計画とは別に提言書として市長に提出することもできるが、いかがか。

田中会長 事務局が言うように、全てを書き込んだだけでは、まとまりのないものになってしまう。委員の具体的な意見を、意見書（提言書）として提出すれば解決につながると考えられる。詳細な方策について計画に盛り込み、10年経って達成できなかったということになると良くないことである。

堀委員 具体的な案を作らないと、事務局として10年間の中で何ができて、何ができなかったのかということが分からないのではないかと思う。今後10年の中で見直すときにも振り返るものとして必要だと思う。

田中会長 途中、1年、2年経ったときのチェックポイントとして、目安として作っておくのが良いと思うが、事務局が伝えたとおりの別枠での提言も方法としてあると思う。

守谷委員 先程も話にあった、デジタル化に関する具体案についても国際化を成し遂げるための一つの方策であるので、計画の幹に加えるとなると議論が必要になるが、より詳細な意見は、意見書としてまとめることができたらと思う。受け取ってもらえたら、方向性を間違えることもなく、チェックポイントとして残すことができる。
先程の小西委員の住宅の充実、コミュニティの充実についての話は、前回の会議で堀委員や杉尾委員の意見があり、話し合った。外国人を含めたコミュニティを作るという意見であった。理化学研究所にいる外国籍市民の特徴としてはどのようなのか。

小西委員 理化学研究所の外国人の公用語は英語である。

守谷委員 和光市では最近 LINE を利用したサービスが開始されたので、それを利用して外国人
人が参加しやすいコミュニティを作れたらと思っている。これは、具体案でもある
が、計画の幹になる部分でもあると思う。前回の会議では、外国人が登録するグル
ープを作り、そこに参加してもらえたらという話になった。市内で生活する外国人
に、始めからグループに入ってもらおうことで支援がしやすいということであった。

杉尾委員 関連して、第 3 章の基本方針 1 について、提案がある。資料 2 で現在和光市が取り
組んでいる LINE との協働連携事業について何が行われているか理解することがで
きた。守谷委員が言ったように、外国人の支援の入り口をどうするのか明確にしな
ければ、様々な施策について伝えたい人にも伝わらず、伝わった結果どうなるのか
ということが分からない。

この計画の中で、どのように施策を進めていくのかということが問題であるとのこ
とで、前回の会議で議論したと思っている。それを踏まえて、今回の素案を見て、12
ページについて、非常にきれいにまとまっていると思う。「②課題解決のために」の
中で、「外国籍市民の意見・要望を把握する体制を整備していきます。また、これま
で進めてきた外国籍市民のための情報提供を、ニーズに応じて全庁的に推進してい
きます。」と書かれたうえで、内容の多言語・やさしい日本語による情報提供とい
う施策につながっている。16 ページを見ると、多言語・やさしい日本語による情報提
供について、どんな情報を多言語化するのかということは示されているが、どのよ
うに伝えるのかということが何も施策として展開されていない。このままで良いの
かということが疑問として残っている。

先程紹介があったように、和光市が取り組もうとしている、日本人であれば意思表
示をすれば情報提供を受けることができる（LINE）仕組みができつつある。その流
れの中に国際化の施策を進める前提として、「つながる」ということを進め、和光市
に住む全外国籍市民に向け 100 パーセント支援をすることを目標として掲げたい。
国際化の前提としてもインフラを完全に整備しようと、そして、それを使って情報
伝達をし、他の施策についても展開が図られ、展開の成果がどのようであったのか
確認できると思う。施策の中に、LINE でなくとも「つながり」を作り、進めていけ
たらと思う。

事務局 LINE のサービスが開始されたので、多言語化できないか確認したところ、日本語で
自動応答するように、外国語で自動応対するためには、外国語の単語ごとに外国語
の応対する本文を作成し、リンクさせる必要がある。それには、膨大な業務が生じ、
新しい委託業者との契約するなどの必要性があると考えられる。すぐに導入するこ
とは難しい。

守谷委員 日本語と同じレベルでの英語による情報提供は難しいと思うが、入口の問題である
ので、そこにいるということが分かる仕組みを作る必要があると思う。まずはつな

がる入口を、この LINE があるから登録して、個別の意見であったら対応することができるという形ができると思う。

大塚委員 基本方針1の施策1「イ 外国籍市民の意見・要望の把握」について、外国人の困っていることを調査されたという話を聞いたことがない。外国人が困っていることについて調査をしたら、計画がもっと良くなると思う。和光市に住む外国籍市民を無作為に抽出しアンケート調査等を行うことはできないのか。実際に住んでいる外国人の声を聞くことはできないか。外国人がそのようなことを聞かれたことがないと思う。医療機関が一番困っていることはわかるが、予算の問題もあり誘致等は難しいと考えられる、せめて外国籍市民の意見を聞くことはできないのだろうか。困っていることを聞いてくれただけでも外国人としては気持ちが楽になるのではないかと思う。

守谷委員 先程の話に追加で、外国籍市民の組み分けができないか。年齢の違いや、理化学研究所の方のように英語しか話すことができない人、すぐに母国に帰ろうと思っている人、和光市に永住しようと考えている人の違いなどを考慮できたらと思う。平均的なアンケートをとっても、性質が異なると思う。統計的な資料を基に充実させることができたなら和光市の特徴をつかむこともできると思う。

田中会長 外国籍市民の要望・意見の把握についても、一般市民と企業に勤める市民と分けたうえで調査することを提言書の中に入れて市として動いてもらえたらと思う。

大塚委員 外国人の意見として、困っていることだけでなく、良いこともあると思うので、聞いてみてもらえたらと思う。

原委員 前回の会議で ICT の活用について意見が多くあったことから、事務局で10ページの全体像に、施策2に取り入れてもらっている。施策2「ア 多言語・やさしい日本語による行政情報の等の提供」とあるが、「イ ICT の活用（多言語・やさしい日本語）」となっている。全体像の中でカッコ「」を使うことについて、施策1「ア 緊急時（災害時など）における外国人支援体制の整備」においては理解できる。「イ ICT の活用（多言語・やさしい日本語）」も「イ 多言語・やさしい日本語を利用した ICT の活用」等書き換えることはできないだろうか。素案の他の箇所においても同様の記載があるので全て修正しなければならないと思う。16ページを見るとさらに詳細に記載されている。「イ ICT の活用（多言語・やさしい日本語）」のうち、「外国籍市民への新たな情報伝達手段の開拓」については、これまでの話ではLINEが該当すると考えられるが、実現が難しいのであれば、表現を修正する必要があると思う。また、申請手続きの簡易化について、簡易化が多言語であることができるのか、窓口での申請手続きの多言語化のことを示しているのか分かりづらい。カッコの使い方について疑問をもった。

また、15 ページ「令和 2 年度策定時の状況」の文中、「外国語応接協力職員」とあるが、下記の注釈の中では、「外国語応援協力職員」となっている。

事務局

次回までに確認し修正する。

又地委員

第 3 章全体について、入れ替えるのが良いと思っていることがある。施策 1 から 7 について、13 ページ以降それぞれについて書かれていると思うが、施策の目的、状況、課題、取り組み内容の順になっている。先に状況と課題を提示したうえで、施策の目的と取組について述べるのが読み手にとっては分かりやすいと思う。

また、私は基本方針 2 のうち、特に 21 ページから 22 ページ施策 4 「国際理解教育の推進」について最も関心がある。現状がどうなっていて、課題が何であるのかの分析が見られない。素案の中では、課題の項目にやりたいことが書いてある。現状と課題も明確に分析したうえで、問題解決に向けた取り組みを示してもらいたい。主な取り組み内容の中の主な取組「多文化理解のための教育」について、2 つ具体的な内容が挙げられている。「総合的な学習の時間」における国際理解教育」と「小学校、中学校、高校で連携した国際理解の学習」である。

「総合的な学習の時間」における国際理解教育」については、具体的にどのようなことを行っているのか。平成 30 年度の国際化推進計画実施状況調査の調査結果を見ると、「各小・中学校において、年間指導計画に基づき実施した」とのことであるが、実際に何を実施したのかということが分からない。どんな国際理解教育を実施したのかという内容が重要であるので、この調査結果は回答結果ではないと思っている。年間指導計画に基づいて実施した内容の何が課題であったのか、ということについて 21 ページの状況や課題の項目で書いてほしい。

また、「小学校、中学校、高校で連携した国際理解の学習」についても、同様に平成 30 年度の国際化推進計画実施状況調査の調査結果を見ると、授業研究や研修会を実施したということ、英語の弁論・暗唱大会に向けて高校の先生に指導してもらったとのことである。内容を見ると、英語科教育の内容となっており、国際理解のための学習とは必ずしも言えないと思う。今回の会議資料「学校教育における国際理解教育・外国語活動について」では、「国際理解教育≠語学教育(外国語科)」と書いてあり、その通りであると思っている。英語科教育を超えた、より多文化理解をするための教育としての、本来の意味での国際理解教育であることを意識して進めていく必要があると思う。ぜひ、課題を明らかにし、計画に付け加えてほしいと思う。

山口委員

自分も長年英語の教員をやってきて、和光市国際ネットワークにも参加させていただいている。和光市は理化学研究所のように世界的に活躍をしている企業等があり、外国人が勉強しにくる場であり、またそこに務めている人もいる。自分は市内で 2 校中学校を経験してきたが、総合的な学習の中での国際理解教育が弱いと思っている。和光市は福祉も充実しており、総合的な学習の時間の中で、社会福祉協議会と連携しながら 1 年次、2 年次、3 年次と系統立てて学習している。そのような取組に

対して、国際理解教育は弱い。小学校では、外国語活動から外国語科の授業へ変わっていく中で新たな取り組みを始めたり、新たなシステムを導入したりしながら活性化しているところである。本来、中学校における国際理解教育は外国人の生活を理解したり、優れた考え方に触れたりすることで、これらの機会があれば、日本人にとっての刺激になる。他市ではこのような取り組みを多く含められているが、自分が市内で経験した2校では、あまり国際理解教育を進めているとは感じられなかった。第三中学校では、外国人に來ていただきお話を聞く機会があった。それも大切なことであるが、総合的な学習の時間において、または、各授業の時間の中で、動画コンテンツを作成するなど、デジタル化に合わせた国際理解教育をすることができたらと思う。デジタル化が進む中で、様々なコンテンツを利用しながら国際理解教育を勧められたらと思う。また、姉妹都市ロングビュー市との交流も長年にわたるが、一部の生徒同士の交流にとどまっている。姉妹都市との交流を動画コンテンツで掘り起こしたり、呼び掛けたりするような取り組みができたらと思う。配布資料にもあるが、Skypeを使った交流をする予定だった。このような取り組みを、推進できたら和光市独自の国際化の授業ができると思っている。

又地委員の意見に全く同感であり、そのようなことから充実させ多くの子供たちが国際理解をするチャンスが増えることによって、異なる考えの人がいることを理解し、転入してきた外国人の子供への考え方にも変化があると思う。何か話しかけてみようかなと思うことができ、些細な触れ合いの中で浸透していくと考えられる。なかなか実現は難しいが、福祉分野において社会福祉協議会と連携があるように、国際理解についても、懇話会を経て、国際化推進計画の中で具体案を挙げることができたらと思っている。学校教育課または、行政機関の中から教育していただくのも良いと思う。

コンテンツなどを利用して、こんなことをやろうということを計画の中に入れることができれば、市内の小学校・中学校・高校において実現できるのではないだろうか。

事務局

これまでの意見について、確認になるが、原委員の10ページ体系図の施策2「ICT活用の充実（多言語・やさしい日本語）」について、施策2で「多言語・やさしい日本語」の表記があるので、イの文中において「(多言語・やさしい日本語)」は削除してよろしいか。

全員

よい。

事務局

また、又地委員の基本方針の書き方の順番については、和光市国際化推進計画の上位計画である第五次総合振興計画の中で、目的、状況、課題、取り組み内容の順に示されているので、それに倣ってのものである。今後、事務局で検討させていただく。

<第4章について>

- 田中会長 続いて、第4章に移る。まずは文章の間違い等がないか確認してもらいたい。目安として、15分間協議する。
- 守谷委員 「2 市の国際化推進体制の強化」の中に「(3)ICT（情報通信技術）の活用による多言語化」と示されているが、多言語化のためにICTがあるのではない。ICTについては、もう少し幅広い部分で活用される。多言語化のために活用することを示す必要はないと思う。先程山口委員が言ったように、多言語化だけでなく、他の活用の仕方がある。ぜひ、人のつながりにおいても活用してもらいたい。
- 事務局 現時点の案として、多言語化だけでなく交流等、人のつながりにおいても活用することができると思っている。「ICTの活用による多言語化」を「ICTの活用による多言語化・交流の推進」に変更するのはどうか。国際化推進の計画であるので、「ICTの活用」にすると、国際とのつながりが不明瞭になってしまう。内容を具体的に示すために、「多言語化・交流の推進」を付け加えたい。そして、内容2行目「多言語対応として」を削除したい。
- 守谷委員 ICTの目的はコミュニケーションも含まれていると思う。国際化を意識して、「グローバル化」や「国際的な」といったワードを内容に入れることができると良い。コミュニケーションを活性化できることもICTの魅力であるので、意識してもらいたい。題名に国際化がつかないと関連性がなくなってしまうかもしれない。少し唐突だとも思うが。デジタル化の推進を考えた文章はなかったので、国際化とつながらないのであれば、この項目は削除になるのかもしれないが。
- 事務局 国際交流も含めれば、ICTの活用についても幅が広がり、国際化推進を網羅したものになると思う。
- 守谷委員 コミュニケーションの多様化も含めて示すことができると良いと思う。間口を狭めると、無理のない計画になると思う。
- 事務局 事務局で時間をかけて検討させていただく。
- 田中会長 国際化推進計画の体制のなかで、ICTの活用は今後重要な取り組みになると考えられるので、ここで委員による協議ができたらと思う。文言等について意見はあるか。
- 守谷委員 国内でも多くの外国人が生活しているので、ICTの活用によって国内においても入口を作ることができたらと思う。グローバルとなると対外的なものになる。外にいる方も日本とつながるようになればと思うが、なかなか具体的には思い浮かばない。

田中会長	多くの人が読んで、分かりやすい言葉で示すことができたらと思う。
大塚委員	多くの人に読んでもらうために、難しい文章で表すのではなく、イラスト化したり、キャラクターを使ったりすると子供でも見ることができるのではないだろうか。この計画に市民みんな浸透しやすくするために工夫することができたら良いと思う。難しい表現であると、スルーしてしまう人が多い。小学生などでも和光市の取り組みを知った方が良いと思う。
田中会長	事務局の資料によると、令和3年1月に第4回の会議があるので、そこで再度審議したいと思う。事務局で検討していただくのでよろしいか。
全員	よい。

(4) 次回の懇話会について

田中会長	続いて、次回の懇話会についてだが、事務局から何かあるか。
事務局	第4回会議の日程について、事務局としては、1月15日(金)、18日(月)、20日(水)、22日(金)、のいずれかの午後に開催したいと考えている。第4回会議では、本日皆様からいただいたご意見・ご提案等をまとめ、修正した素案を提示させていただく。それまで期間があるので、委員の皆様にも素案の内容をご確認いただく必要が生じる可能性があるため、その際にご協力をお願いします。 《全員で日程調整》
田中会長	それでは、第4回懇話会は、令和2年1月20日に開催といたします。会議の開始時刻、会場等詳細につきましては、後日事務局よりご連絡をお願いします。以上で本日の議題はすべて終了したので、これをもって議長の職を解かせていただく。
事務局	以上をもって、和光市国際化推進懇話会第3回会議を終了する。